

初年次教育の評価とは何か？

課題研究担当理事

井下千以子
川嶋太津夫
関田一彦
濱名 篤

【企画趣旨】

今回の高大接続改革の一環として大学に義務づけられた3ポリシーの策定に関する「ガイドライン」では、カリキュラム・ポリシーに、教養教育、専門教育、キャリア教育とともに学士課程教育の必須の教育プログラムとして初年次教育が言及されている。

したがって、初年次教育は学士課程教育の一部であるから、当然、ディプロマ・ポリシーの実現に貢献することが必要である。しかし、その有効性をどのように評価すれば良いのかは、必ずしも明らかになっていない。

認証評価の第3サイクルでは、大学の内部質保証が重視されることから、ディプロマ・ポリシーが実現できているかの確認には、「アセスメント・プラン」が重要であることの認識が我が国でも徐々に高まってきた。

では初年次教育の有効性を確認するには、大学の「アセスメント・プラン」では、どのように位置づければ良いのであろうか。

- ・なぜ初年次教育のアセスメントを行うのか(初年次教育のアセスメントの目的は何か)？
- ・アセスメントの対象は何か(単位、レベル等)？
- ・いつアセスメントは実施されるべきか(初年次終了時、2年次、卒業時、卒業後…)？
- ・誰がアセスメントすべきか(担当者、専門科目の教員…)？
- ・どこにデータはあるのか？
- ・どのように分析すべきか？

など、初年次教育の有効性の確認(アセスメント)には、まだまだ解決すべき課題が多い。

そこで、今回の課題研究では、初年次教育の評価(アセスメント)について、初年次教育担当者、IR担当者それぞれの立場から、これらの課題についてアプローチを試みたい。

報告者：

谷尾 宣久 氏(千歳科学技術大学)

藤木 清 氏(関西国際大学)